

【事例 H29-31】 佐賀県

災害時こころのケア（PFA）研修会

【概要】佐賀県精神保健福祉センター主催で研修を実施。災害時において特に配慮が必要となる乳幼児や妊産婦、障害者、外国人などの支援に携わる者が、ストレスが増大し自殺のリスクが高まる災害時のこころのケアについて学び、被災者へ適切な対応がとれるようになることを目的とした事業。災害時に特に配慮が必要となる方に直接支援をする者（国際交流担当者・通訳・社会福祉協議会職員・市町職員・保健福祉事務所職員・児童福祉施設職員等）を対象とした。PFA（サイコロジカル・ファーストエイド：心理的応急処置）研修指導者の養成をうけた医師・事務職に講師を依頼し、講義・ロールプレイなどを用いた内容の研修会を行った。

【大綱の分類】

4. 自殺対策に係る人材の確保、養成及び資質の向上を図る
5. 心の健康を支援する環境の整備と心の健康づくりを推進する
7. 社会全体の自殺リスクを低下させる

【政策パッケージ分類】

- 基本 2-1) さまざまな職種を対象とする研修
- 基本 2-4) 関係者間の連携調整を担う人材の育成)
- 重点 7-1) 大規模災害被災者に対する支援の充実
- 重点 7-3) 被災地域でのアウトリーチの強化や多職種・他部門連携による寄り添い支援

【事業実施年度】 2018 年度事例（2017～2019 年度）

【事業予算】 117,491 円（2018 年度）

【利 点】

- ▼ 災害弱者の支援にあたる人を対象としているが、知識や資格の有無に関わらず受講できる内容ではあるため、災害発生時により効率的に研修成果が発揮できる。
- ▼ 講義だけではなく、ロールプレイを含んだ内容であるため、より実践に活かしやすい。
- ▼ 精神保健福祉センターの役割を知る機会ともなり、研修後の連携ができる。

【実施に至るまで】

開催の背景・必要性

- ① 研修の対象者である国際交流担当者・通訳・児童福祉施設職員・行政職員・社会福祉協議会職員等が災害時のメンタルヘルスについて学ぶ機会が少ない。
- ② 近年県内で大規模災害は発生していないが、平時より災害時の備えをしておく必要がある。
- ③ 身近な支援者が災害時のメンタルヘルスに関する知識を持ち、災害弱者に対し対応することは大きな安心感につながる。

計画を立てる上での工夫

- ① 当初は災害対策基本法による「要配慮者」の定義に基づき、乳幼児に関わっている保育施設職員等を対象としていたが、同様の研修がないか確認したところ、県内で同職種を対象

- とした研修が開催されることが分かった。対象が重複しているため、他の災害時特に配慮が必要な人を支援する職種に対象を変更することとした。
- ② 災害対策を行う県の担当部署（消防防災課）に相談し、災害時弱者になりやすい外国人を支援する国際交流協会職員や通訳、災害時ボランティア活動等を行う社会福祉協議会職員等を対象とした。
 - ③ 依頼した講師と丁寧に打ち合わせを行い、3名の講師で対応可能な参加人数の設定・進め方（ロールプレイ内容）などを決定した。
 - ④ ロールプレイ等が十分に行え、かつ参加者の業務への影響を考慮し半日（4時間）の設定とした。
 - ⑤ 子どもとの場面を想定したロールプレイで、パペットや折り紙（被災地にパペットがないことを想定）を準備した。

具体的な内容

▼ アイスブレイク

- ・研修を受けるにあたっての期待と不安を共有
- ・グループメンバーとの交流・自己紹介

▼ 講義

- ・災害時のメンタルヘルス（災害後の心理的反応・災害後に生じるメンタルヘルスの問題・子どもによくみられる反応）
- ・心理的応急処置（PFA）について（PFAとは・実際に行うときのポイント）
- ・支援者支援（支援者のストレスや反応・ストレス対処法）

▼ ロールプレイ

- ・被災場面を設定して、被災によりストレスを抱えている方との関りを、支援者、支援を受ける人（被災者・支援者）、観察者の役割に分かれて、PFAの行動原則である「見る」「聴く」「つなぐ」を意識したロールプレイをグループ毎に発表する。

▼ まとめと質疑

【成 果】

- ▼ 参加者は15名であり、幅広い職種からの参加があった。
- ▼ アンケートの結果では参加者の9割以上が理解度75%以上であり、今後の業務に役立つと回答した参加者が多かった。ほとんどの方が研修時間についても「ちょうどよい」という回答だった。
- ▼ アンケートの自由記載では「周囲の人にもこの研修を受けてほしい」という意見が多数あり、研修の意義を感じた参加者が多かったと思われる。
- ▼ 研修後に災害時の支援の体制づくりに関心を示した機関があった。
- ▼ 精神保健福祉センター職員と顔の見える関係づくりができ、研修会後に互いが主催する研修会の講師を勤めるなど連携の一步となった。

【補 足】

- ▼ 案内チラシ
右記に記載

災害時こころのケア(PFA)研修会

サイコソジカル・ファーストエイド(PFA)は、深刻な危機的出来事に見舞われた人に対して行う支援です。大きな災害や事故などにより深刻な精神的苦痛を抱える人に対して、支援者としてどのような言葉をかけ、どのような行動をとればいいのかを学びます。ご参加をお待ちしています！！

日 時： 平成 30 年 12 月 14 日(金) 13:00～17:00 (受付 12:30～)

場 所： 肥前精神医療センター内 医師養成研修センター
(神埼郡吉野ヶ里町三津 160)

<会場アクセス>

<院内配置図>

内 容： サイコソジカル・ファーストエイドに関する講義とロールプレイ
 講師： 肥前精神医療センター 精神科医師 他
 対象者： 災害時に配慮が必要となる方(乳幼児、妊産婦、障害者、外国人など)に
 直接支援をする者 約 25 名
 ※資格・専門知識の有無は問いません。
 申込み： 申込書(裏面)に記入の上、メール又はFAXで申し込み(H30.12.3 締切)
 送付先： 佐賀県精神保健福祉センター
 Mail: seishinhokenfukushisenta@pref.saga.lg.jp
 FAX: 0952-73-3388

問い合わせ先： 佐賀県精神保健福祉センター 相談・指導担当 馬場
Tel. 0952-73-5060

【課題】

- ▼ 1回の研修の受講できる人数が15名程度であるため、多くの人に受講してもらうためには対応できる講師を増やす必要がある。（精神保健福祉センターで2018年度2名、2019年度1名が指導者養成研修を受講し、独自で研修会を開催できるような体制を整備している）

【事業種別】	研修実施
【準備期間】	60日程度
【人数】	3名
【人口規模】	823,620人 2017年10月1日推計人口
【財政規模】	453,558,716,000円
【自治体負担率】	50%
【事業対象】	支援者
【支援対象】	災害時に特に配慮を要する者（乳幼児・妊産婦・障害者・外国人等）
【委託の有無】	無
【実施主体・問合せ先】	佐賀県精神保健福祉センター TEL: 0952 (73) 5060 Mail: seishinhokenfukushisenta@pref.saga.lg.jp

【参考資料・文献】 なし